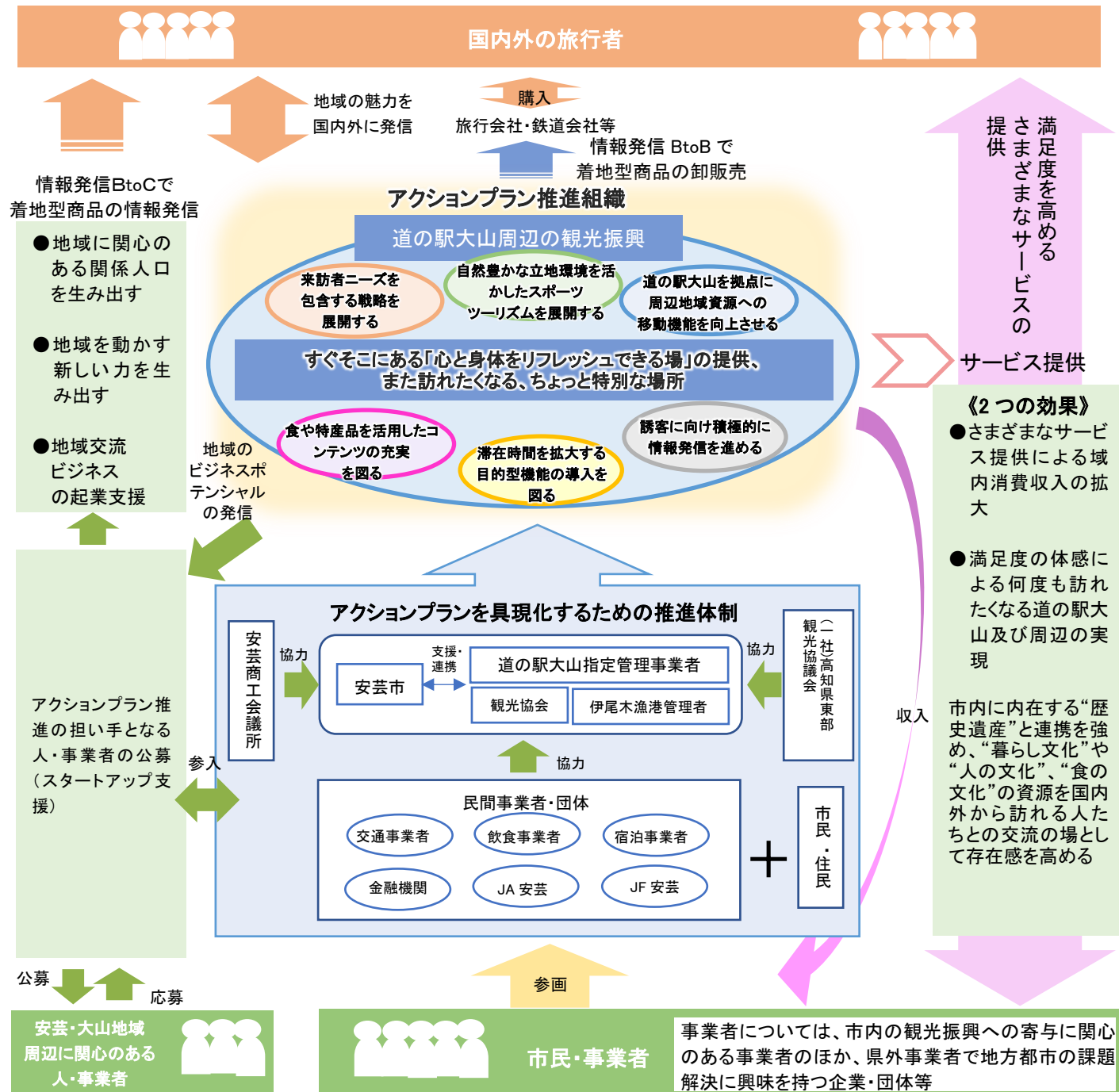


推進体制

各主体間の連携を促進することにより推進力を強化し、BtoB、BtoC によって策定したアクションプランの具現化を図る。



進捗管理

計画の中で策定された様々な資源やスケジュール、成果と実際の進行状況との間のずれを常に把握し、変更や見直し等を必要に応じて行うこととする。

道の駅大山周辺観光振興計画では、PDCA サイクルによって計画と成果をより良い状態にし、そのことで道の駅大山及び周辺地域の賑わい創出を図る。(PDCA サイクルとは、P(Plan:計画)D(Do:実行)C(Check:評価・見直し)A(Act:改善)の一連の活動をいう。)

【進捗管理の活動】

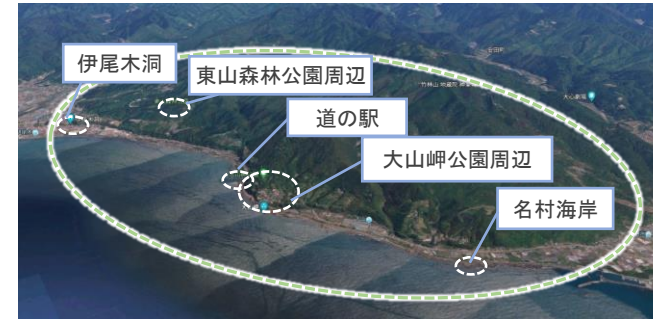
進捗管理は、道の駅大山周辺観光振興計画策定について議論を深めた「戦略会議」を継続して設け、社会経済情勢、市域及び地域の特徴的な変化等の外部環境の状況を踏まえて、その場を活用して評価、意見、提案等を行うこととする。

道の駅大山周辺観光振興計画においては、多様な主体がそれぞれの事業に対して、自己マネジメントによる進捗管理も合わせて加えることとする。

戦略会議では、これらのマネジメント結果を俯瞰しつつ、振興計画に係る進捗管理を行う。

道の駅大山周辺観光振興計画 ー概要版ー

現状と分析



道の駅大山と周辺地域

現状

- 高知市といった観光イメージのある観光地と比べると、本市は観光イメージが弱く、訪問率や観光資源の認知度も低い。
- アスレチックスポーツ、キャンプ場等が考えられ、ロケーションからしてポテンシャルは十分ある。
- 現在、道の駅大山は改修工事を行っており、休憩機能や情報提供機能等の充実によるリニューアルは、多くの集客に結び付くことが見込まれる。
- 本市はアクセスの不便さや宿泊施設の少なさ、短時間で周遊できる環境であるため、通過地点となってしまうている。
- インターネットアンケートから見ると、本市の観光情報が旅行者に十分届いていないことがうかがえる。
- 道の駅大山だけの展開ではなく、周辺整備と連携し総合的な取り組みから拠点性を高める必要がある。

SWOT 分析			内部要因			
			強み	弱み		
			●グルメ、名産品は評価が高く、関心も高い ●知られていないコンテンツが多く、集客の伸び幅は大きい ●ボルダリングのエリアは、山や川が多く、海をバックに開放感のある場所で楽しめる環境で愛好家にとって非常に魅力的である ●前面には漁港内の静穏域、太平洋の大海原が広がり海との親和性が高い ●冬は海に沈む夕日が見られて素晴らしい	●安芸は、短時間で周遊できる環境なので、滞在時間の拡大に結び付くコンテンツ開発が必要となる ●道の駅大山周辺の建物は老朽化しているため、建て替え等による景観改善が必要となる ●特定の観光イメージが未形成 ●競合との差別化ができていない ●宿泊施設が少ない ●観光情報が市場に届いていない		
外部要因	機会	●30代女性からの満足度や再来訪意向が高いことが調査からわかった ●希望する旅行の種類として、「地域固有の食を楽しむ観光」が挙げられている ●「のんびり過ごしたい」「リフレッシュしたい」ニーズ ●外食控えが見られるものの、引き続き食コンテンツは需要が高い	積極的姿勢	●グルメ・特産品の認知度拡大や、新商品開発で更に強みを伸ばす ●マリンスポーツやアスレチックスポーツ、キャンプ場等が考えられ、ロケーションからしてポテンシャルは十分ある ●現在、道の駅大山は改修工事を行っており、リニューアルにより、多くの集客が見込まれる	段階的施策	●のんびりくつろいでリフレッシュできる過ごし方や楽しみ方を提案する情報発信の強化 ●密を避けられる環境の認知 ●既存コンテンツのリブランディング ●駐車場の整備、観光情報の発信 ●大山岬公園周辺の有効活用 ●案内看板等の多言語化
	脅威	●安芸市は通過型の都市であり、滞在時間を増やすことが最大の課題となる ●宿泊は高知市内が多いため、大半は日帰りとなっている	アピール戦略	●本市ならではのコンテンツで競合との違いを明確に打ち出す ●リピート率を上げるための多彩なコンテンツを造成する	総合戦略	●道の駅大山だけの展開ではなく、周辺整備と連携し総合的な取り組みから拠点性を高める

方向性

来訪者ニーズを包含する戦略展開

少し特別な「わくわく」「楽しい」「美味しい」「心地よい」を感じることができる場所で、自らの身体を動かす体験を、居心地の良い環境から刺激を受け、来訪者の自己実現により、自分自身を再発見し、新たな価値を創造する。大山地区を安芸観光の拠点として位置づける。

自然豊かな立地環境を活かしたスポーツツーリズムの展開

脈々と地域の人たちの努力で受け継がれてきた地域資源を活かし、前面の漁港内の静穏域や太平洋の大海原を活かしたSUPやフィッシング等のマリンスポーツ、コンクリート法面の活用によるボルダリングやプレイパークとして子供たちが遊べる場の創出やシェアサイクル、小型モビリティ等の機能の整備により移動環境の向上、漁港エリアや施設周辺エリアを教育旅行の受け入れ拠点として機能させる。

食や特産品を活用したコンテンツを充実

「しらす」や特産品の野菜を活用して、道の駅オリジナルの土産品を創造する。キッチンカーイベントにより地域食材を生かし食の提供から賑わいを創出する。

滞在時間を拡大する目的型機能の導入

道の駅大山周辺地域の情報を提供すると共に、ワーケーション機能の導入及び教育旅行の受け入れ、サテライトオフィスへと発展させ、目的型施設として展開させる。

道の駅大山周辺観光振興の基本構想と基本方針

《基本理念》

太平洋の大海原に育まれた環境から生まれる、さまざまなコンテンツや
アクティビティへの参加が、自分づくりにつながる旅を創造

《テーマ・コンセプト》

すぐそこにある「心と身体をリフレッシュできる場」の提供
また訪れたくなる、ちょっと特別な場所

基本方針

方針1

来訪者ニーズを包含する基本戦略の展開
～道の駅大山を安芸観光で1日楽しめる拠点とする～

方針2

自然豊かな立地環境を活かしたスポーツツーリズムの展開

方針3

道の駅大山を拠点に周辺地域資源への移動機能の向上

方針4

食や特産品を活用したコンテンツの充実

方針5

キッチンカー等での賑わい創出

方針6

滞在時間を拡大する目的型機能の導入

方針7

誘客に向けた積極的な情報発信の展開

社会の潮流・機会をとらえたアクションプラン

1

来訪者ニーズを包含する基本戦略を展開する

①推進スケジュールを管理する。

- ◆道の駅大山を安芸観光で1日楽しめる拠点とするシナリオを組み立てる。
- ◆推進体制を整える。
- ◆定期的に会合を開き進捗状況を確認する。

②アクションプランを具現化させるための推進体制を構築する。

- ◆様々な主体を結集する。
- ◆組み立てたシナリオに沿って事業を推進する。

③道の駅大山を安芸観光で1日楽しめる拠点とする。

- ◆安芸観光の拠点的功能を整える。

2

自然豊かな立地環境を活かしたスポーツツーリズムを展開する

①スポーツツーリズムのファンの欲求に応える体験プログラムの開発を行う。

- ◆フィッシングやSUP等のマリンスポーツを楽しむプログラムやインストラクター、用具等を整備するとともに、支援体制を整える。
- ◆道の駅大山の管理運営業務にスポーツツーリズムの推進を加える。
- ◆道の駅での案内、練習をサポートするインストラクターを配置する。
- ◆子どもも楽しめる初心者向けの体験プログラムを開発する。
- ◆河野公園にプレイパーク機能を整備し、インストラクターの指導のもと、子供たちが気軽にオープンエアな環境を楽しめるようにする。

②道の駅大山及び周辺地域への来場者を増やす。

- ◆道の駅大山に荷物の預かりやボルダリングの各種物品購入が可能なレセプション機能を整備する。
- ◆道の駅大山及び周辺地域の「スポーツの場」や「学習の場」としての機能を広くPRし、スポーツ体験を組み合わせた修学旅行等の若年層の受け入れを積極的に行っていく。

3

道の駅大山を拠点に周辺地域資源への移動機能を向上させる

①道の駅大山を拠点に周辺への移動環境を整える。

- ◆道の駅大山を起終点とするルート整備を行い、サイン、案内板等を整える。
- ◆ルートマップ（パンフレット制作版、スマートフォンアプリ版）を用意する。
- ◆電動シェアサイクル、グリーンスローモビリティ等の導入をコストパフォーマンスの検討を加えて選定・導入する。
- ◆導入したグリーンスローモビリティ等のメンテナンス体制を整える。

②道の駅大山及び周辺地域での滞在時間を拡大させる。

- ◆導入したグリーンスローモビリティ等を利用したモデルプログラムを開発する。
- ◆開発したモデルプログラムをベースにモニターツアーを企画し、参加者からの声を集め改善を図る。

③ウォーキングルートの環境整備と健康づくりプログラムの開発を図る。

- ◆誰もが気軽に歩き健康づくりができるウォーキングルートを整備する。
- ◆ウォーキングルートを活用した健康づくりプログラムを開発する。

4

食や特産品を活用したコンテンツの充実を図る

①道の駅オリジナルの食や特産品を開発し情報化を図る。

- ◆地産地消の食材を活かした食の開発に従事する料理人やフードコーディネーター等の協力を得て、道の駅オリジナルの食や特産品を開発する。
- ◆開発した道の駅オリジナルの食や特産品の写真及び、有識者やオピニオンリーダー、一般消費者等からコメントを収集する。

②開発した道の駅オリジナルの食や特産品の周知を図る広報ツールを作成する。

- ◆観光協会のホームページやインスタグラム等で「開発した道の駅オリジナルの食や特産品」の情報を集めたコメントを活用して発信する。

5

キッチンカー等での賑わい創出を図る

①道の駅周辺が市民、来訪者により常に賑わうエリアとする。

- ◆キッチンカーを1台確保する。
- ◆キッチンカーを活用した市民や学生が参加するチャレンジショップ事業要綱と募集要項の作成と公募・審査・出展者を決定する。
- ◆4月、5月のゴールデンウィーク、10月、11月のシルバーウィークや土曜日曜祝日でのキッチンカーイベントを開催する。

6

滞在時間を拡大する目的型機能の導入を図る

①目的型機能の導入を図る。

- ◆道の駅にサテライトオフィスや教育旅行を受け入れる機能（スペースの確保、wifi環境、ICT設備等）を付加する。
- ◆前面の海や背後の山地等の自然環境の場でスポーツツーリズムを通じて、体験に加えて自己研鑽や探求学習が行える教育旅行プログラムを開発する。
- ◆開発した教育旅行プログラムを指導、サポートするインストラクターを配置する。

②道の駅大山及び周辺地域での滞在時間を拡大させる。

- ◆道の駅大山及び周辺地域でのサテライトオフィスの開設や教育旅行のディスティネーションとして選ばれるよう広報ツール（HPやパンフレット等）を用意する。
- ◆道の駅大山及び周辺地域がサテライトオフィスの適地であることについて、大阪や東京の商工会議所、経済団体等に向けたBtoBセールスを展開する。
- ◆開発した教育旅行プログラムをベースに、旅行会社や学校法人等を対象にBtoBセールスを展開する。

7

誘客に向け積極的に情報発信を進める

①太平洋に面し心や身体を「ゆったり」「リフレッシュ」することをイメージさせるPRを展開する。

- ◆心や身体を「ゆったり」「リフレッシュ」することをイメージさせるキャッチコピーとポスター等を作成し、市内外で広くPRする。
- ◆動画によるスポーツや散策により心や身体を「ゆったり」「リフレッシュ」できる場の魅力をPRするインスタグラム等を活用しながら展開する。

②観光に関わる職員を対象として、情報発信に必要なスキルの向上を図る。

- ◆効果的なプレスリリースの方法やインスタグラム等を活用した最新の広報PRを学ぶ。
- ◆写真、動画の撮影の仕方や、心に響く文章の書き方を学ぶ。

③道の駅大山を高知県東部地域の情報拠点と位置づけ、ここに立ち寄れば、様々な地域情報が入手可能にする。

- ◆高知県東部地域の観光情報提供コーナーをつくる。
- ◆高知県東部地域の観光情報を定期的に収集し提供する。